

学期 / Semester	2016年度 / Academic Year 後期 / Second Semester	曜日・校時 / Day・Period	木 / Thu 3
開講期間 / Class period	2016/09/30 ~ 2017/01/26		
必修選択 / Required/Elective class	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20160587041301	科目番号 / Subject code	05870413
科目ナンバリングコード / Numbering Code	GEMB 13711_005		
授業科目名 / Subject	私たちと核兵器廃絶 (市民運動・NGOと核兵器廃絶) / Civil Society/NGOs and Nuclear Weapons Abolition		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	中村 桂子 / Nakamura Keiko		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	中村 桂子 / Nakamura Keiko		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	中村 桂子 / Nakamura Keiko		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Class Form	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育B棟34 / RoomB-34		
対象学生 (クラス等) / Object Student	多文化、教育、経済、薬学、水産		
担当教員Eメールアドレス / E-mail address	nakamurak@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室 / Laboratory	核兵器廃絶研究センター (RECNA)		
担当教員TEL/Tel	095-819-2865		
担当教員オフィスアワー / Office hours	毎週木曜14:40-16:00		
授業の概要及び位置づけ / Course Outline and Objectives	このクラスでは、核兵器をめぐる日本と世界の動きの中で、市民運動やNGOがどのような役割を担ってきたのかを学びます。民主主義における市民社会の役割と位置付けを概観したのちに、過去と現在におけるいくつかの特徴的な市民・NGOの活動の例を取り上げ、その背後の理論、成果、残る課題等について検証します。核軍縮に限らず、さまざまな国際問題に関心のある学生、将来国際機関やNGOで働くことを視野に入れている学生、一人の人間として社会に対して何ができるのかを模索したい学生、いろいろな問題関心のある学生に対応した授業となっています。		
授業到達目標 / Goal	核兵器をめぐる市民運動とNGOの動きについて全体的な知識を得るとともに、核兵器のない世界の実現に向けた課題が何かを理解し、解決への具体的方途について学生一人一人が自分で考え、それを説明できるようになることを期待します。		
授業方法 (学習指導法) / Method	授業は担当教員による講義に加え、ゲストスピーカーによる講義やグループ発表、ディスカッションなどを組み合わせたものになります。講義であっても、リアクションペーパーなどを通じて、学生が主体的に自分の意見を組み立て、表現する機会を持てるようにします。また、授業の中では、パワーポイントスライド、写真、映像などのさまざまなビジュアルを通して、学生が最新の世界の動きに触れるとともに、そのダイナミズムを感じ取られるような授業を行います。実際の活動の当事者を招いて話を聞くことも追求します。少人数グループに分かれての調査、その報告及びグループディスカッションも予定します。		
授業内容 / Class outline / Con	講義は、「市民」「市民社会」「NGO」とは何かといった概念整理から始め、民主主義体制における市民社会の役割を歴史的観点から概観します。その中では、特定の兵器に関する禁止条約の策定において市民・NGOが担ってきた役割についても学びます。核兵器をめぐるのは、その誕生から現在に至るまでの歴史の中で、国内外の市民・NGOがどのような運動を展開してきたか、その歴史的背景、活動における理念や考え方、実際の活動、社会的・政治的影響と成果、残る課題等について具体的事例を挙げながら検証していきます。並行して、グループ単位でのNGO・市民運動の活動に関する調査を行い、その結果を発表するとともに意見交換を行います。		
キーワード / Key word	核兵器、市民、市民社会、NGO		
教科書・教材・参考書 / Textbook, Teaching material, and Reference book			
成績評価の方法・基準等 / Evaluation	出席点及び講義の際のリアクションペーパー、意見発表などの平常点が全体の60%、期末のレポートが40%です。グループワークへの参加は必須です。		
受講要件 (履修条件) / Requirements	全回出席が原則。		
アクセシビリティ / Accessibility	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員(上記連絡先参照)または「アシスト広場」(障がい学生支援室)にご相談下さい。 アシスト広場(障がい学生支援室)連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@ml.nagasaki-u.ac.jp		
備考 (URL) / Remarks (URL)			
学生へのメッセージ / Message for students	核兵器廃絶は国や国際機関だけが取り組んでいる課題ではありません。この授業をきっかけに、核兵器の問題を一人一人の問題としてとらえ、今の世界を少しでも良くするために個人やグループとしてあるいは地域として何ができるか、を考えていきたいと思えます。		
授業計画詳細 / Course Schedule			
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	授業の進め方について 「市民社会」とは何か		

第2回	市民社会は世界を変えたのか ～対人地雷兵器禁止の例から～
第3回	原水爆禁止運動の誕生と発展
第4回	広島・長崎の被爆者の運動
第5回	アジアの中の日本 ～市民社会の連携を考える～
第6回	グローバルな核兵器廃絶運動の今
第7回	核兵器廃絶に向けた自治体の取り組み
第8回	「科学者の社会的責任」とは？
第9回	日本の役割とNGO
第10回	若者による運動
第11回	グループ発表
第12回	グループ発表
第13回	グループ発表
第14回	グループ発表、全体の講評
第15回	まとめ：私たちにできることは？
第16回	

学期 / Semester	2016年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	金 / Fri 3
開講期間 / Class period	2016/04/06 ~ 2016/07/22		
必修選択 / Required/Elective class	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20160587041701	科目番号 / Subject code	05870417
科目ナンバリングコード / Numbering Code	GEMB 13721_005		
授業科目名 / Subject	私たちと核兵器廃絶 (被ばく者と医療) / Hibakusha and medical care		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	中島 正洋 / Nakashima Masahiro, 赤星 正純 / Masazumi Akahoshi, 三根 真理子 / Mine Mariko, 宮崎 泰司 / Miyazaki Yasushi, 中村 桂子 / Nakamura Keiko		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	中島 正洋 / Nakashima Masahiro		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	中島 正洋 / Nakashima Masahiro, 赤星 正純 / Masazumi Akahoshi, 三根 真理子 / Mine Mariko, 宮崎 泰司 / Miyazaki Yasushi		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Class Form	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育A棟11 / RoomA-11		
対象学生 (クラス等) / Object Student	2年次、多文化、経済、教育、薬学、水産		
担当教員Eメールアドレス / E-mail address	moemoe@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室 / Laboratory	原研病理		
担当教員TEL / Tel	095-819-7105		
担当教員オフィスアワー / Office hours	木曜日 17:00 ~ 19:00		
授業の概要及び位置づけ / Course Outline and Objectives	原爆被災後の被災者の救護活動、人体への影響の実態、健康影響の追跡調査の結果とその治療状況を知り、被ばく者医療の過去・現在・未来を考察する。		
授業到達目標 / Goal	原爆被ばくの人体影響を理解できる。 原爆被爆者の健康調査について理解できる。 原爆被災時の救護活動について理解できる。 被ばく者医療の過去・現在・未来をグループで考えることができる。		
授業方法 (学習指導法) / Method	4人の講師がそれぞれの専門分野からみた原爆被ばくの人体影響について解説する。学生はそれを受けて、各自の考えを述べ合い、まとめる。		
授業内容 / Class outline / Con			
キーワード / Key word	原爆被ばく者、救護、疫学調査、放射線の人体影響、被ばく者医療		
教科書・教材・参考書 / Textbook, Teaching material, and Reference book	授業計画に沿ってパワーポイント、ビデオを使用し、プリント、資料を配布する。参考書は講義の際に紹介する。		
成績評価の方法・基準等 / Evaluation	全15回の課題レポートの平均点および意見交換の発表状況を考慮して評価する。なお、講義の順番は変更になる場合もある。		
受講要件 (履修条件) / Requirements			
アクセシビリティ / Accessibility	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員(上記連絡先参照)または「アシスト広場」(障がい学生支援室)にご相談下さい。 アシスト広場(障がい学生支援室)連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@m1.nagasaki-u.ac.jp		
備考 (URL) / Remarks (URL)			
学生へのメッセージ / Message for students			
授業計画詳細 / Course Schedule			
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	三根真理子: 原爆と医療の概要		
第2回	三根真理子: 原爆直後の救護活動(1)		
第3回	宮崎泰司: 原爆と血液疾患		
第4回	宮崎泰司: 被ばく者への医療		
第5回	三根真理子: 原爆直後の救護活動(2)		
第6回	三根真理子: 原爆直後の人体影響調査(1)		
第7回	三根真理子: 原爆直後の人体影響調査(2)		
第8回	中島正洋: 放射線とがん		
第9回	中島正洋: 放射線被ばく急性障害		
第10回	赤星正純: 原爆被爆者の疫学調査(1)		
第11回	赤星正純: 原爆被爆者の疫学調査(2)		

第12回	赤星正純：原爆被爆者の疫学調査（3）
第13回	三根真理子：原爆直後の人体影響調査（3）
第14回	三根真理子：原爆被爆者の疫学調査（大学）
第15回	三根真理子：まとめ（学生の意見交換）
第16回	

学期 / Semester	2016年度 / Academic Year 後期 / Second Semester	曜日・校時 / Day・Period	金 / Fri 3
開講期間 / Class period	2016/09/30 ~ 2017/02/03		
必修選択 / Required/Elective class	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20160587042501	科目番号 / Subject code	05870425
科目ナンバリングコード / Numbering Code	GEMB 13741_005		
授業科目名 / Subject	私たちと核兵器廃絶 (文学・芸術と核兵器) / Arts, Literature and Nuclear Arms		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	広瀬 訓 / Hirose Satoshi, 山上 徹二郎 / Tetujiro Yamagami, 赤木 幹子 / Mikiko Kanko, 中村 桂子 / Nakamura Keiko		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	広瀬 訓 / Hirose Satoshi		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	広瀬 訓 / Hirose Satoshi, 山上 徹二郎 / Tetujiro Yamagami, 赤木 幹子 / Mikiko Kanko		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Class Form	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育B棟34 / RoomB-34		
対象学生 (クラス等) / Object Student	2年次、多文化、経済、教育、薬学、水産		
担当教員Eメールアドレス / E-mail address	shirose@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室 / Laboratory	核兵器廃絶研究センター2階		
担当教員TEL/Tel	095-819-2204		
担当教員オフィスアワー / Office hours	水曜日4限およびアポイントメントによる		
授業の概要及び位置づけ / Course Outline and Objectives	文学、絵画、映画、コミック、音楽等に核兵器の存在および使用が与えた影響を探り、核兵器が様々な芸術の中でどのように描写されてきたかを考察することで、核兵器が人々の間でどのように認識、位置づけされてきたかを検討すると同時に、芸術が核兵器の存在に与える影響についても考える。同時に、「被爆地ナガサキ」がどのように描写され、それについて、現在長崎で学ぶ学生がどのようにその意味を発信できるのか、各自が考察する。		
授業到達目標 / Goal	様々な文学・芸術と核兵器の存在との間の関係について、現状を理解し、その背景にある核兵器の存在に対する認識・見解を検討し、それに対する自分の意見を、論理的に構築し、表現することを目的とする。		
授業方法 (学習指導法) / Method	平和、紛争、核兵器を取り扱う各種メディアに関し、基礎的な知識を学びながら、グループディスカッション、グループワーク、リアクションペーパー、プレゼンテーション等、多様な方法により、学生の意見を共有する形式で授業を進めたいと思います。さらに積極的にLACS等も活用する予定です。また、講師として、現役のプロデューサー、評論家等を迎えますので、多彩な授業内容になるかと思えます。		

<p>授業内容/Class outline/Con</p>	<p>様々なメディアに表現されている核兵器の存在をそれぞれの分野の専門家による講義を通して検討してゆく。非常勤講師の都合により、講義の順序が入れ替わる場合がある。 講義のアウトライン</p> <p>第1回 はじめに：授業の進め方（広瀬） 文学・芸術と核兵器 ・理論によるアプローチと感性によるアプローチ ・核兵器の何を描写するのか：「ひろしまのピカ」と「超兵器R1号」</p> <p>第2回 戦争と平和の文学と芸術（広瀬） ・文学と絵本が描く戦争と平和 ・戦前の日本の文学とコミック（「少年倶楽部」と「のらくろ」）</p> <p>第3回 他人に伝えるということ（赤木かんこ） ・他人に伝わる文章 ・読書感想文の書きかた</p> <p>第4回 コミックに描かれた戦争と平和（広瀬） ・何を伝えたかったのか（「ジバング」） ・メッセージとテクニック（手塚治虫、水木しげる）</p> <p>第5回 原爆と映画：その1（山上徹二郎） ・「映画」というメディアの特徴と影響について</p> <p>第6回 リサーチ実習（赤木かんこ） ・テーマの立て方 ・事実の調べ方 ・レファレンスとは何か</p> <p>第7回 原爆と映画：その2（山上徹二郎）</p> <p>第8回 コミックに描かれた核兵器（広瀬） ・感情的表現と論理的表現 ・テーマの設定（「はだしのゲン」、「沈黙の艦隊」） ・核兵器の理解（「龍」、「エリア88」）</p> <p>第9回 芸術の持つ力（広瀬） ・扇動と芸術 ・意図と効果</p> <p>第10回 文学を読み解く力（赤木かんこ） ・読解とは何か</p> <p>第11回 メディアの功罪（広瀬） ・「戦うマンガ」 ・ジャパニアニメ・パッシング ・「売る」、「煽る」、「考える」</p> <p>第12回 新しいメディア（広瀬） ・デジタルメディアと核兵器 ・NagasakiArchive という挑戦</p> <p>第13回 原子力発電と児童文学（広瀬） ・現在の問題にどう向き合うか（「みえない雲」） ・3/11以降の児童文学とコミック（「はじまりの春」、「いちえふ」）</p> <p>第14回 戦争児童文学の流れ（赤木かんこ） ・海外の作品 ・日本の作品 ・児童文学の中の広島・長崎</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>講義の進度、講師の判断等により、多少予定が変更になる場合があります。</p>
<p>キーワード/Key word</p>	<p>核兵器、芸術、認識、メディア、報道倫理</p>
<p>教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book</p>	<p>教科書は特に指定しません。ただし、ブックレポートの課題が出された場合は、対象の本は必読となります。参考書は下記ですが、授業の際に取り上げる、あるいは推薦する図書、絵本、映画、コミック等のリストを随時配布する予定ですので、できるだけ自分で読んでください。</p> <p>長谷川 潮 『戦争児童文学は真実を伝えてきたか』 梨の木舎 鳥越 信・長谷川 潮 『はじめて学ぶ日本の戦争児童文学史』 ミネルヴァ書房 長谷川 潮 『世界の子どもの本から「核と戦争」が見える』 梨の木舎 石子 順 『漫画に見る戦争と平和90年』 ほるぷ出版</p>
<p>成績評価の方法・基準等/Evaluation</p>	<p>出席点を含め、レポート、リアクションペーパーの提出、ディスカッション、グループワークへの積極的な参加、意見の発表等、平常点が60%、期末の成果物（通常のレポート以外に、絵本、紙芝居、小説、詩歌、シナリオ、短編フィルム等、多様な形式での提出を認めようと考えています）が40%です。</p>

受講要件（履修条件）/Requirements	
アクセシビリティ/Accessibility	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006 （FAX）095-819-2948 （E-MAIL）support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考（URL）/Remarks(URL)	
学生へのメッセージ/Message for students	文学、芸術は、講義で説明を聞いているだけで理解できるものではありません。できるだけ積極的に戦争、平和、核兵器をテーマとした映画、ドラマ、コミック、絵本、小説等を自分で見たり、読んだりするように努めてください。
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	はじめに：授業の進め方（広瀬 訓） 文学・芸術と核兵器 ・理論によるアプローチと感性によるアプローチ ・核兵器の何を描写するのか「ひろしまのピカ」、「超兵器R1号」
第2回	他人に伝えるということ（赤木かんこ） ・「文章」とは何か ・「書籍」とは何か ・他人に伝わる文章の組み立て方 ・児童文学とは何か
第3回	原爆と映画：その1（山上徹二郎） ・「映画」というメディアの特徴と影響について
第4回	戦争と平和の文学と芸術（広瀬 訓） ・文学と絵本が描く戦争と平和 ・戦前の日本の文学とコミック「少年倶楽部」と「のらくる」
第5回	戦争児童文学は何を伝えてきたか（赤木かんこ） ・「図書館」とは何か ・「調べる」と「報告する」
第6回	コミックに描かれた戦争と平和（広瀬 訓） ・何を伝えなかったのか ・メッセージとテクニク
第7回	原爆と映画：その2（山上徹二郎） ・何を、何故、どう描くか
第8回	コミックに描かれた核兵器（広瀬 訓） ・感情的表現と理論的表現 ・テーマの設定（「はだしのゲン」、「沈黙の艦隊」） ・核兵器の理解（「龍」、「エリア88」）
第9回	核をテーマとした児童文学（赤木かんこ） ・外国作品 ・日本の作品
第10回	芸術の持つ力（広瀬 訓） ・「風が吹くとき」のインパクト
第11回	児童文学と広島・長崎（赤木かんこ） ・児童文学の中の原爆 ・広島・長崎の児童文学
第12回	メディアの功罪（広瀬 訓） ・「戦うマンガ」 ・ジャパン・アニメバッシング ・「売る」、「煽る」、「考える」
第13回	新しいメディア（広瀬 訓） ・デジタルメディアと核兵器 ・NagasakiArchive という挑戦
第14回	原子力発電と児童文学（広瀬 訓） ・現在の問題にどう向き合うか ・3/11後の児童文学
第15回	まとめ（広瀬 訓）
第16回	期末レポート提出